

3. 3 会員企業の活動事例

各地の建設業協会の会員企業は、地域の安全・安心確保を最優先に考えて、災害時には先頭に立って復旧活動に従事するとともに、日頃から地域の防災支援活動や環境美化・保全活動、社会福祉活動、建設業ふれあい活動などにも積極的に取り組んでいます。これらの活動は、地元企業ならではの工夫により、住民にもたいへん喜ばれ、建設業のイメージアップにつながっています。

平成 25 年度に顕彰した会員企業のこうした活動事例の中から、ここでは次の 13 事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B1-01	青森県	(株)南建設	鉱山廃水処理施設の土砂災害時緊急支援
B1-02	滋賀県	(株)内田組	集中豪雨による土砂災害復旧支援活動
B2-01	新潟県	(株)小池組	「海拔表示ステッカー」の掲示活動
B3-01	北海道	勇建設(株)	公園・道路の清掃活動
B3-02	山形県	(株)佐藤工務	海岸・河川の清掃活動
B3-03	鹿児島県	薩摩建設(株)	道路・河川敷の整備清掃活動
B4-01	北海道	国策建設(株)	カラカネイトトンボ生息地の保全活動
B4-02	岡山県	天野産業(株)	カブトガニ繁殖地の保護啓発運動
B5-01	秋田県	伊藤工業(株)	「チーム伊達直人」を結成して除雪奉仕活動
B5-02	長崎県	(株)森開発	大規模な献血活動
B6-01	愛知県	東海建設(株)	子どもの夏休み職業体験の実施
B6-02	長崎県	大坪建設(株)	「大坪建設杯スポーツ大会」の開催
B7-01	愛知県	矢作建設工業(株)	工事現場での建設イメージアップ活動

(1) 災害復旧支援活動

会員企業の災害復旧支援活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B1-01	青森県	(株)南建設	鉱山廃水処理施設の土砂災害時緊急支援
B1-02	滋賀県	(株)内田組	集中豪雨による土砂災害復旧支援活動

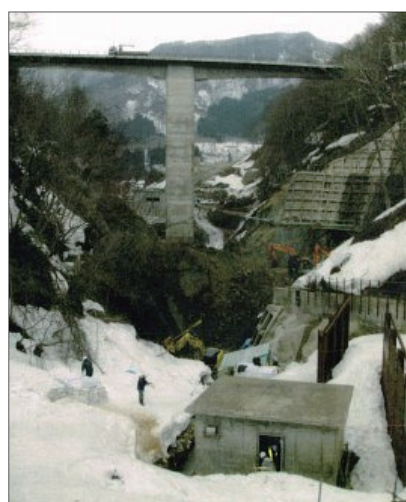
事例 B1-01 : 青森県

鉱山廃水処理施設の土砂災害時緊急支援 (株)南建設

青森県西目屋村の旧尾太鉱山は、休廃止鉱山の一つであり、現在、県が管理して坑廃水処理事業を行っている。しかし、処理施設が山腹に位置しているため、土砂崩壊や雪崩等で施設が被害を受けて、廃水が流出する事故が度々発生している。

平成 24 年 4 月 15 日には、原水槽に大量の土砂が流れ込み、廃水を汲み上げるポンプが停止して、重金属を含む廃水が未処理のまま目屋ダムに流出する事故が発生した。目屋ダムは、弘前市周辺の水源となっており、早急な対応が求められた。

(株)南建設は、4 月 16 日早朝、県より事故対応の緊急出動要請を受け、作業人員を確保して現場に急行した。流出を止めるためには、揚水ポンプの復旧が必要で、一刻も早く 2 箇所の原水槽内の土砂を撤去しなければならない。作業員は 2 班に分かれて狭い槽内に入り、土のう袋に土砂を詰めてロープで引き上げ、狭い足場の上を手渡しで場



旧尾太鉱山廃水処理施設

外へ運んだ。こうして夕方までに 600 袋を搬出したところ、1 箇所のポンプが復旧し、流出量は半減した。翌 17 日も同様な作業を続け、夕方には 2 箇所の土砂撤去作業が完了した。搬出土砂は 800 袋に達していた。18 日には、土砂流入の原因となった孔の閉塞作業を行って施設を再稼働させ、流出を完全に止めることができた。

同社の迅速な対応により、水質汚染に至る前に流出が止まり、二次災害を防ぐことができた。



鉱山廃水の流出



原水槽内での作業

集中豪雨による土砂災害復旧支援活動（(株)内田組）

平成 24 年 8 月 13 日から 14 日にかけて関西地方を襲った集中豪雨により、滋賀県大津市では、法面崩落、道路損壊など大規模な土砂災害が発生した。

(株)内田組は、14 日早朝、大津市の出動要請を受け、全社員が緊急集合して石山外畑地区の被災現場に駆けつけた。社長の陣頭指揮の下、復旧作業を開始したが、この日夕方、同地区で土砂崩れにより LP ガス貯蔵庫が破壊され、漏れ出したガスが燃焼して民家 2 戸が全焼する事故が発生した。同社社員は、消火後ただちに現場に入り、民家内と周辺の土砂や倒木の撤去・清掃、崩れた斜面の整備、大型土のうの設置など、22 日までの間、昼夜を問わず作業を続け、応急復旧を完了させた。

引き続き 23 日からは、同様の被害があった石山内畑地区に入り、9 月 3 日までの間、土砂・倒木の撤去、道路清掃、斜面養生、排水管の修復、大型土のう設置などの作業にあたった。

同社が、盆休み中にもかかわらず、迅速に対応し、21 日間不休で作業にあたったことで、被害の拡大が防がれ、早期の復旧が実現した。



流出土砂の撤去（外畑地区）



倒木の撤去（外畑地区）



大型土のうの設置（外畑地区）



土砂の撤去（内畑地区）



排水管の修復（内畑地区）

(2) 防災支援活動

会員企業の防災支援活動として、次の事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B2-01	新潟県	(株)小池組	「海拔表示ステッカー」の掲示活動

事例 B2-01：新潟県

「海拔表示ステッカー」の掲示活動（(株)小池組）

(株)小池組は、地元の新潟でも東日本大震災クラスの津波が起こる可能性があると考え、平成23年8月、地元住民の防災意識を高め、避難誘導などに活用してもらうことを目的に、「海拔表示ステッカー」を作製して新発田市に寄贈した。

このステッカーは、空欄に設置場所の海拔を記入する形式で、9月中旬より、地元の小学生たちによって、藤塚浜海岸付近の公共施設など34箇所に掲示された。

その後、この活動が地元の放送局や新聞等で報道され話題となったことで、新潟県建設業協会の各支部から、協会全体の活動として取り組むべきとの声が上がった。

そこで、協会としてステッカーを作製し、沿岸部の各支部が事業として取り組むことになった。この活動は、平成23年12月から翌年9月にかけて、海岸線を持つ佐渡、村上、新発田、新潟、巻、与板、柏崎、上越、糸魚川の9支部で実施され、約2,000箇所ステッカーが掲示された。

この活動は、改めて地元紙に取り上げられるとともに、新潟市の防災会議津波対策専門部会において報告され、道路や電力事業にも波及している。

(株)小池組の地域に密着した小さな活動が、大きな広がりを見せ、地域の安全・安心を担う建設業のイメージアップに大きく貢献している。



海拔表示ステッカーの掲示



海拔表示ステッカー

建設業の小池組（新発田市、小池金一社長）は現在地の海拔を表記したA3判

とA4判サイズのステッカーを作製、新発田市に寄贈する。9月中旬から市の協力を得て、同市の沿岸部にある公共施設などに張り付ける。万一の津波災害を想定し、避難を呼びかける。

「海拔表示ステッカー」写真には「ここは海拔〇m ゆれたら高い所へひなんしましょう 新発田市」と表記した。空欄に海抜を印刷する。

新発田市内の小学校や保育園、公民館などの施設に約20枚、市内の主要な消防栓に約30枚張り付ける。津波が起こりうる地震が発生した場合に備えてもらう。

今後、新発田市のほかにも日本海に面した下越地区の自治体に設置を働き掛け、住民の防災意識を高めたい。

海拔表示ステッカー

津波時の避難呼びかけ

小池組、新発田市に寄贈

新聞記事（日本経済新聞）

(3) 環境美化活動

会員企業の環境美化活動として、次の3事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B3-01	北海道	勇建設(株)	公園・道路の清掃活動
B3-02	山形県	(株)佐藤工務	海岸・河川の清掃活動
B3-03	鹿児島県	薩摩建設(株)	道路・河川敷の整備清掃活動

事例 B3-01 : 北海道

公園・道路の清掃活動（勇建設(株)）

勇建設(株)は、平成18年より、本社が所在する札幌市中央区桑園地区周辺の公園・道路の清掃活動を実施している。

これは、同社の行動憲章に掲げた「地域社会とのコミュニケーションを大切にし、信頼され親しまれる会社を目指す」との方針に基づく活動で、グループ会社も参加する大規模な活動となっている。

平成24年度は、4月27日、役職員約60名が参加し、2班に分かれて北4条ミニ大通公園と北6条エルムの里公園及び周辺で、空き缶や吸い殻、枯れ枝など11袋分のゴミを拾い集めて、清掃した。

同社は、平成21年に中央区道路アダプト制度に登録し、道路清掃（春～秋）や歩道・交差点の砂まき（冬）などを年間15回程度実施しており、今後もこうした活動を続けることで、地域に根差した企業を目指していきたいとしている。



清掃活動前ミーティング



桑園地区の歩道清掃



公園周辺の歩道清掃



海岸・河川の清掃活動（株）佐藤工務

（株）佐藤工務は、ISO14001 の認証を取得した平成 18 年より、地元の鶴岡市由良漁港周辺で海岸清掃活動を行っている。昭和 50 年代から漁港の拡張、離岸堤や埋立て護岸の整備など数多くの工事を手掛け、地元自治会とも良好な関係を築いていたことが、この活動を始める要因となった。

平成 24 年度は、海水浴シーズンを控えた 6 月 30 日、由良漁港埋立て護岸周辺と白山島遊歩道などで、社員ら約 80 人が清掃活動を行った。特に埋立て護岸付近には、流木や砂、漂着ゴミなどが堆積しており、軽トラックを駆使してこれらを撤去した。

また、平成 20 年 6 月、「山形県ふるさとの川アダプト事業」の河川アダプト団体に認定されており、由良海岸の清掃作業も認定活動の一つとなっている。

同社は、自らの ISO14001 環境行動指針の一つ「周辺住民と生き生きした関係の構築」に基づいて、今後も、地元地域との良好な関係を深める活動を続けていきたいとしている。



埋立て護岸周辺の清掃



白山島遊歩道の清掃



アダプト事業の看板



清掃活動参加者

道路・河川敷の整備清掃活動（薩摩建設（株））

薩摩建設（株）は、自社の保有する技術、重機類を活用して、地域のニーズに応えた様々なボランティア活動を実施している。

（1）道路環境の整備

毎年定期的に、会社の前を通る県道約1kmの区間で、清掃・草刈り活動を行っている。平成22年度には、県のふるさとの道サポーターの認証を受け、以降道路沿いに花壇を整備して、季節ごとに花を植え、ドライバーの目を楽しませている。



道路沿いの花壇整備

（2）イベント会場の環境整備

平成25年2月に開催された「さつま町平成18年豪雨災害復興祭」の前には、式典会場や河川敷のウォーキングコース周辺で清掃を行い、また、河川護岸工事で取り付けたままになっている針金等を撤去するなど、参加者の安全確保に努めた。



河川護岸の針金撤去

（3）学校の環境整備支援

地元の求名小学校のPTA奉仕活動に参加している。また、同校通用門のフェンス取替え、宮之城中学校のグラウンド整備等では無償で作業を行っている。

（4）子どもたちとのふれあい活動

土木工事に親しみを持ってもらうため、近隣の児童や園児を対象とした現場見学会、お絵かき大会等を開催している。子どもたちの描いた絵は、現場の仮囲い等に展示しており、地域の話題となっている。

同社は、こうした地域に根差した様々な分野の活動を通じて、「地域になくてはならない存在であり続ける会社」を目指している。



学校のグラウンド清掃



子供たちの現場見学会

(4) 環境保全活動

会員企業の環境保全活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B4-01	北海道	国策建設(株)	カラカネイトトンボ生息地の保全活動
B4-02	岡山県	天野産業(株)	カブトガニ繁殖地の保護啓発運動

事例 B4-01 : 北海道

カラカネイトトンボ生息地の保全活動 (国策建設(株))

国策建設(株)は、平成13年より、地元で結成された「カラカネイトトンボを守る会」に参加して、積極的な環境保全活動を行っている。

「カラカネイトトンボを守る会」は、札幌市の篠路福移湿原の保全と、湿原に生息する動植物の保護を中心に、地域の貴重な自然を守る活動を実践するNPO法人で、主な活動内容は次のとおりである。

(1) 篠路福移湿原の保全活動

埋め立てで急速に失われつつある篠路福移湿原を守るため、土地を賃借して管理するほか、寄付や助成で土地を取得するナショナル・トラスト運動を展開している。

(2) 湿原の動植物の保護活動

篠路福移湿原に生息するカラカネイトトンボ(準絶滅危惧種)などの貴重な動植物を、新たに整備したビオトープに移住させ、生存・繁殖を見守っている。

(3) トンネウス沼の保全活動

茨戸川につながるトンネウス沼が、富栄養化により植生が変化して陸化しているため、過剰に繁茂したヨシ、ミズトクサなどの抽水植物を取り除く開削作業を行っている。

同社は、建設業の機動力を活かして、ビオトープ整備や、毎年行う湿原や沼での草刈り、ヨシ撤去、大掃除などの作業で中心的な役割を果たしているが、今後も、同社環境方針に基づき、環境保全活動の充実を図っていく考えである。



カラカネイトトンボ



ビオトープの清掃



トンネウス沼の開削

カブトガニ繁殖地の保護啓発運動（天野産業(株)）

岡山県笠岡市の笠岡湾周辺干潟は、「カブトガニ繁殖地」として日本で唯一国の天然記念物に指定されており、笠岡市では「カブトガニ保護条例」を制定して、幼生の放流などを実施している。しかし、近年は干潟での潮干狩りやゴミの投棄などにより、生息環境の悪化が懸念される状況となっている。

天野産業(株)は、笠岡港の浚渫、護岸工事などを多く手掛けており、以前より海岸線での環境保全に努めてきたが、平成20年、カブトガニ生息の現状を知り、翌年から繁殖地の保護啓発運動に本格的に取り組むことにした。以来、繁殖地での年2回の清掃活動、潮干狩りなど入浜者に対するのぼり旗とチラシによる啓発活動を続けながら、周辺の企業にもこの運動への参加を呼びかけた。その結果、平成24年度には、24団体、延べ424名が参加する大規模な運動となった。

同社が保護啓発運動を始めた平成21年以降、カブトガニの自然産卵が確認され、干潟で幼生の姿が見られるようになり、運動の効果が顕著に現れている。

なお、同社の保護啓発運動に対して、平成22年3月に笠岡市教育委員長から、平成24年7月には笠岡市長から感謝状が贈られた。



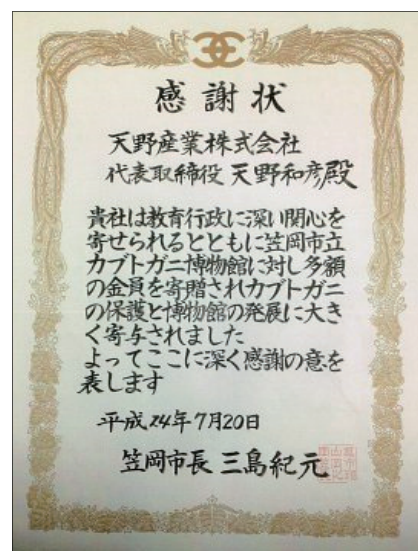
のぼり旗を立てて海岸清掃



入浜者への啓発チラシ配布



海岸周辺の道路清掃



笠岡市長からの感謝状

(5) 社会福祉活動

会員企業の社会福祉活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B5-01	秋田県	伊藤工業(株)	「チーム伊達直人」を結成して除雪奉仕活動
B5-02	長崎県	(株)森開発	大規模な献血活動

事例 B5-01：秋田県

「チーム伊達直人」を結成して除雪奉仕活動（伊藤工業(株)）

伊藤工業(株)は、企業の社会的責任（CSR）を重視した経営を行い、日頃から除雪奉仕活動、献血活動などを積極的に展開している。

除雪奉仕については、福祉施設等への匿名寄付で話題となった「伊達直人（タイガーマスク）」の影響を受けて、社内有志が「チーム伊達直人」を結成。タイガーマスクのヘルメットを着用して高齢者宅に参上し、屋根の雪下ろしや、除排雪を手際よく行っている。「チーム伊達直人」は、夏には保育園にカブトムシを贈るなど、除雪以外にも様々な活動を行っており、住民からも親しまれ、感謝されている。

また同社は、献血活動も30年以上に亘って続けており、平成17年には秋田県知事より表彰され、平成21年には厚生労働大臣より感謝状が贈られた。

同社は、今後も地域社会への貢献活動を活発に行うことで、企業の社会的責任を果たしていきたいと考えている。



タイガーマスクヘルメットの着用



チーム伊達直人による除雪奉仕



厚生労働大臣からの感謝状

大規模な献血活動（(株)森開発）

(株)森開発は、毎年2回、大規模な献血活動を実施している。

同社は、31年前、会社のダンプトラックが起こした人身事故をきっかけに、献血の必要性を痛感し、率先して献血に協力することで社会に貢献しようと考えた。

当初は、社員十数人の献血から始めたが、次第に関係会社や協力会社からの参加者が増えていき、その後、近隣の会社や地域住民にも参加を呼び掛けるようになって、今では、毎回400～500人が参加する長崎県内でも最大規模の献血活動となっている。

平成24年度は、9月と3月の2回、同社敷地内に移動採血車4台を配置して実施した。3月の献血では、雨天にも関わらず438人の参加が得られた。日本赤十字社からは、「冬場から春先にかけては血液が不足する時期。年度末で忙しい中これだけ多くの方にご協力頂き、非常に助かります」との言葉を頂いた。

30年間で献血者累計は9千人を超え、来年度は1万人に達する見込みである。

また、3月には献血活動30周年を記念して、日本赤十字社に献血広報車1台を寄贈した。広報車は、日本赤十字社の広報活動のほか、採血スタッフの移動、資材の運搬などに活躍している。

同社の献血活動は、日本赤十字社からも高く評価されており、平成17年に金色有功章、平成21年には銀色有功章を受章した。



献血受付



採血



献血広報車の寄贈



日本赤十字社の銀色有功章

(6) 建設業ふれあい活動

会員企業の建設業ふれあい活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B6-01	愛知県	東海建設(株)	子どもの夏休み職業体験の実施
B6-02	長崎県	大坪建設(株)	「大坪建設杯スポーツ大会」の開催

事例 B6-01：愛知県

子どもの夏休み職業体験の実施（東海建設(株)）

東海建設(株)は、平成19年より、近隣の子どもたちを対象とした「子どもの職業体験」を実施している。

これは、毎年夏休みに、社員の子どもを含む近隣の子ども会から15名ほどを招いて開催する体験イベントで、地域の子育て支援とともに、子どもたちに建設業の仕事や役割を理解してもらうことを目的としている。

平成24年度の実施内容は次の通り。

(1) 本社敷地内での体験

- ・大型ペイローダーの試乗体験とバケット操作体験
- ・セオドライトを用いた自作紙飛行機の飛距離測定体験

(2) 橋梁工事現場での体験

- ・アスファルト舗装前の橋面コンクリート下地をキャンバスとしたお絵かき大会

(3) 造成工事現場での体験

- ・測量杭の試打ち体験

普段見ることがない大型重機や建設工事現場を間近で体験することは、子どもたちにとって驚きと興奮の連続であり、同時に、その危険性も肌で感じ取ることができて、夏休みの楽しい思い出となった。

こうした活動を続けていることが行政からも評価され、同社は、平成22年、名古屋市の「子育て支援企業」として認定されている。



大型重機の試乗体験



距離測定体験



測量杭の試打ち体験

「大坪建設杯スポーツ大会」の開催（大坪建設（株））

大坪建設（株）は、地元の長崎県平戸市田平町で、毎年「大坪建設杯サッカー大会」と「大坪建設杯バドミントン大会」を開催している。

サッカー大会は、「仲間とサッカーをやりたいが、活動場所や資金がない」、「中学生でも参加できるサッカー大会を地元で開催してほしい」という地元の若者や保護者の声に応じて、平成元年から実施している。実施要領の決定から案内状の作成、関係者への協力依頼、賞品の準備、当日の運営まで、すべて同社社員が行う手作りの大会である。

第1回目は青年3チーム、中学生2チームの参加で始まった本大会であるが、現在では、チーム数が増えて選抜しなければならない状況で、平戸市民が毎年楽しみにしている年中行事の一つとなっている。

また、平成12年からは、やはり地元の要望に応じて、バドミントン大会も実施している。バドミントンは、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が楽しめるので、住民の健康維持・増進とともに、世代間の交流を深める機会としても役立っている。

バドミントン大会では、個人の成績に応じて「完璧」、「見事」、「上手」などと書かれた手作りの賞状が贈られている。

同社は、今後もこうしたスポーツ大会を充実させることで、地域の活性化に貢献していきたいと考えている。



第4回バドミントン大会参加者



第5回バドミントン大会表彰



第6回バドミントン大会表彰

(7) 啓蒙活動

会員企業の啓蒙活動として、次の事例を紹介します。

事例No.	都道府県	企業名等	活動内容
B7-01	愛知県	矢作建設工業(株)	工事現場での建設イメージアップ活動

事例 B7-01 : 愛知県

工事現場での建設イメージアップ活動（矢作建設工業(株)）

矢作建設工業(株)は、工事を進めるうえで近隣の理解が不可欠と考え、工事現場単位で、周辺住民とのふれあい活動を積極的に展開している。

同社が名古屋市内で手掛ける「1号一色大橋道路建設工事」は、国道1号線と住宅密集地の狭間で行う道路拡張工事で、バス停や通学路が近接しているため、工事現場事務所では次のような活動を行っている。

(1) バス停待合所の設置

バス停前の現場敷地を待合場所として提供し、防犯灯と工事説明の大型看板を設置した。



バス停待合所

(2) 小学生登校時の交通誘導

現場内の通学路を歩いて登校する児童を、交通誘導員が誘導している。



小学生の交通誘導

(3) 「子ども110番の家」への登録

通学中の児童を犯罪から守るため、学区内の子ども110番事業所として指定を受けた。

(4) 子ども絵画コンクールの開催

夏休みに子ども絵画コンクールを開催し、優秀作品を表彰するとともに、応募作品は通学路沿いの防音デザインパネル上に展示している。

(5) 地域イベントへの参加

地域が行う清掃活動や餅つき大会などには、欠かさず参加している。

同社は、こうした活動を通じて近隣住民とふれあい、信頼を得ることで、工事を安全かつ円滑に進めるとともに、建設業のイメージアップを図っていききたいと考えている。



絵画コンクール作品の展示